

河内先生の姿勢の根本というものをさらに別の言葉で提示すれば特定の状況のなかでの安定した傾向性の自然な発露であり、私が遭遇した事例で言えばある事態を否定する言辞に当面してさえ自身の判定を繰り返すしかし拘泥とは無縁なしなやかにして安らかな柔軟性である。肯定的な褒詞を否定されても肯定しつづける性向はいわゆる常識では把握し得ないほどに自身の根底からおのずから湧き上がるマサにシカあるべきものとして当然なる内面からの声に違いない。先に数値の公共性とは無縁な位階での認識の在り様を挙げたがこの定式を継承するなら内側の本来さまざま形容が付加し得る心根それじたいの公共性への今度は素直な滲出と言うべきものであろう。私は宗教的な境位には少しも通じていないが河内先生の心のこのような在り様その根底に対して信を置くこと切である。不逞なる企てとは知りつつも信を置いているその限りに於いて人の生の新たな側面を見だし把握する機会を得たことへの謝辞を此処で復誦することは、同僚である事態から退かれた河内先生の「名人」的な在り様に遙かに及ばぬ私にとっては当然のごとくに賦課された責務と言わざるを得ない、次第。

小笠原先生、河内先生へ

ロシア語 杉山秀子

昨年ご両人の先生が定年前にご勇退なさると伺い、とても残念な気持ちになりました。両先生とも駒澤大学の生え抜きの卒業生で、しかも僧籍をお持ちで共に長年学究生活で培われた該博な知識を若い後輩たちに惜しみなく与えてくれました。

小笠原先生はあの体格のとおり押し出しがよく、いつも悠然としておられる

ので、そばにいるとこちらの気持ちまでゆったりするようでした。いつも私に杉山先生はエカテリーナ女帝のように女権を振るうからとか冗談をおっしゃって笑わせました。一度なにかのおりに食事のことが話題になり、「480円かそこの学内の定食を食べて満足してはだめだ」とチラツといたずらっぽくいわれたことがありますが、その場のコンテキストから察していかに小笠原先生らしい素直なご意見だなと思ったことがありました。私のごく親しい友人に大東文化大学の名誉教授の渡辺さんという人がいます。彼女がいうには、「あるとき、ハワイかどこかで行われた国際会議場で、小笠原さんとかいう駒澤の先生と同席したとき、非常に大人（たいじん）風で発言の内容もすごく冴えていてピッシと決まっていたので駒澤の学長かと思った」と回想していました。このように小笠原先生は国際会議の場数も何度も踏まれており、大事な表舞台では、決めるところはピッシと決めていたのですね。先生には古さにとらわれない自由な発想をするところもあり、それがお坊様先生にしてはとても新鮮で面白く感ぜられました。惜しむらくは大舞台と同様、小さな我が教授会でももう少し自由に言いたいほうだい発言なさせてもよかったのにと思いました。

この4月からは信州大学で教鞭をとられていられるとか。私は登山が好きでよく乗鞍方面に行くことがあります。帰りは白骨温泉で体を休めたりします。山紫水明の松本にこれから常住されるのはうらやましいかぎりです。そのうち乗鞍にいったら電話します。

河内先生とは小笠原先生ほどうちとけて冗談をいえる間柄ではありませんでした。ただロシア語の教え子が卒業後ラトビアに赴き琥珀を買い付け起業し、小さいながらも河内先生のお寺のごく近くにマイホームを建てたのでいつも話しの話題は千葉の田園のことでした。教え子の会社で扱っている数珠を図々しくも買って下さいなどとお頼みしたこともありましたね。これからは豊かな田園の中で悠々自適のご生活をお送りください。